

# 岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2012・3 vol.426

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—名誉理事長 大堀 勉

## 救援物資、震災募金への御礼

この度の東日本大地震・大津波大災害に際しましては、多くの皆様から救援物資並びに募金をお寄せいただいています。皆様からの温かいご支援に対し心より御礼申し上げます。



平成23年度岩手医科大学医療専門学校卒業式

〈写真撮影：3月8日(木) 関連記事P8〉

### お知らせ

平成24年2月27日に開催された本法人理事会において、理事長の互選を行った結果、次のとおり選任されましたのでお知らせいたします。

理事長 小川 彰（現岩手医科大学長）

任 期 平成24年2月27日～平成27年2月22日まで

## 理事長就任ご挨拶

学校法人岩手医科大学 理事長  
岩手医科大学 学 長

小 川 彰



**こ** の度、大堀勉前理事長の後を受けて、学校法人岩手医科大学理事長を拝命しました。責任の重大さに身が細る思いです。

**一** 期目の学長に選任されたばかりです。で、当面は理事長と学長の2足のわらじを履く事になります。本学は3,000名近い教職員と2,000名を超える学生を擁する大組織であり、その運営に当たって私個人の力は微力です。教職員の皆様、学生諸君が一丸となったご支援をお願い致します。

**さ** て、本学は、総合移転整備計画の真つただ中にあります。そこに、昨年3.11東日本大震災津波が起こりました。岩手県の沿岸被災地の復興は一年たった今なお十分に進んでいるとは言いがたい状況です。この大災害によって、本学の総合移転整備計画も大きな変更を余儀なくされています。未だ平時ではなく動乱の時期が続いていると言って良いでしょう。

**今** 年度からドクターヘリの運用が開始されます。災害対策の一環として、災害医学講座、災害・地域精神医学講座を新設しました。そして、完全免震で独自の非常用発電装置を備え、全県の医療データを一括管理できる災害時地域医療支援教育センター機能をもつマルチメディア教育研究棟建築に着手します。一年後には矢巾に東講義実習棟と同規模の建物が完成し運用を開

始します。

**ま** た、来年には薬学部が初めての卒業生を輩出し完成年度を迎えます。大学院も整備しなければなりません。そして、いよいよ総合移転整備計画の仕上げとも言うべき附属病院本院移転、内丸メディカルセンターの整備を開始しなければなりません。詳細は十分に固まっている訳ではなく、今後皆様のご意見を拝聴しなければなりません。小児、周産期救急を含む全県の救急医療の中心としての統合医療センター機能を含む入院、手術の高度医療機能を有する1000床規模の矢巾本院を新築します。また、内丸地区を再開発し、がん外来化学・放射線療法や高度歯科医療、高度診断機能を有する100床規模の高規格の外来中心の内丸メディカルセンターを整備します。運用開始は平成30年を目標としていますので、待たなしの大事業がスタートします。

**さ** らに並行して、大災害の復興のため不足している医療関連のコ・メディカルの人材育成を通じ雇用と地域の需要創出に寄与する必要があるのではないかと考えています。

**最** 後に、今はまさに大学の存亡をかけた有事の時期との共通認識を持って頂きたいと思えます。その上で、全教職員がベクトルを同じくして岩手医科大学の更なる発展のため共に努力して頂く事を強くお願いしご挨拶と致します。

# 岩手県こころのケアセンターが開所しました

東日本大地震・大津波大災害発生以来、本学は被災された方々へこころのケアの支援活動を続けてまいりましたが、この度、岩手県から事業を委託され「岩手県こころのケアセンター」が開所の運びとなりました。

2月15日(水)午後1時30分からは、内丸キャンパス3・4号館7階において開所式が執り行われ、本学や岩手県の関係者が出席しました。

開所式では、宮舘寿喜副知事と小川学長によりセンターの看板が設置され、固い握手が交わされました。また、開所式後には、酒井明夫センター長（本学神経精神科学講座教授）と大塚耕太郎副センター長（同講師）からセンターの紹介が行われ、酒井センター長が「複数の専門職による複合的な心のケアに取り組んでいきたい」と今後の抱負を述べました。



看板を掲げる宮舘寿喜副知事（左）と小川学長（右）



センターの紹介をする酒井明夫センター長（右）と大塚耕太郎副センター長（左）

センター施設は、事務室とミーティングルーム2室が設けられ明るく開放的な内観となっています。また、パソコンモニタには、カメラが取り付けられていて、沿岸部4地域（久慈、宮古、釜石、大船渡）の「地域こころのケアセンター」と通信することが可能です。

今後、精神的負担を抱える被災者の専門的ケアを行う中核拠点として、センターの役割が期待されます。



事務室



ミーティングルーム1



ミーティングルーム2



# 動物研究センターの紹介

医歯薬総合研究所 動物研究センター

副センター長 花 木 賢 一



## 1. はじめに

動物実験は『動物の愛護及び管理に関する法律』第41条で明文化された国際的倫理規範「3Rの原則」を遵守し、文部科学省告示『研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針』に従って、機関等の長（学長）の責任の下で適切に行う必要があります。また、環境省告示『実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準』では、動物の輸送、飼養及び保管等について基準を設けています。動物の飼養に関する規制は他にもありますが、それらを遵守することで「社会的に適正な動物実験」を行っていると言えます。一方、動物実験は「科学的に適正」なものでなければ、本来の実験目的を達成することができません。「科学的に適正」とは、再現性の高い実験結果を得るために「均一な品質の動物」を用い、「均一な環境」と「均一な実験方法」で動物実験を行うことを言います。従って、社会的にも科学的にも適正な動物実験を行うためには、動物の飼養保管施設の整備が不可欠と言えます。

## 2. 建物の概要

矢巾キャンパスの動物研究センター（英名：Center for In Vivo Science）は、動物飼養保管スペースと動物実験スペースを備えた本格的な動物実験施設で、2009年12月16日着工、昨年2月28日に竣工しました。建物は鉄筋コンクリート造の地上3階建、延べ床面積1,707.4平米で、超高磁場先端MRI研究所に隣接しています。一般の建物に比べて窓が少ない特異な外観をしています。これは動物を完全な人工環境下（=均一な環境）で飼養するため、人の居住部分を除いてウィンドレスとしているためです（図1）。竣工後間もない3月11日の東北地方太平洋沖地震による損傷は小さく、空調設備の試験運転完了後の5月9日より供用を開始しました。



図1 動物研究センター（写真中央）の外観

## 3. 施設の概要

1階には清浄動物飼育区域、一般動物飼育区域、洗浄保管区域があり、動物にとっての病気やストレスの原因となるものが施設内へ持ち込まれないよう、正面出入口と各動物飼育区域の出入口は電子錠により入退制限を行っています。各種動物飼育室は、例外を除いて一年を通じて室温24℃、湿度50±10%、換気回数15~20回/時で維持されています。また、照明は午前7時点灯、午後7時消灯としています。飼育設備は動物由来のアレルギー物質対策として、一方向気流方式飼育架台を採用し、動物飼育室内であっても臭気の少ない環境を実現しています（図2、3）。

主な飼育動物はマウス（最大収容能力約1万匹）、ラット（同約800匹）、ウサギ（同84羽）で、その他にはモルモット、unks等が飼育されています。洗浄室は少人数で効率よく飼育器材の洗浄と滅菌ができるように、自動ケージ洗浄装置1台と両面オートクレーブ2台を備えています（図4）。



図2 遺伝子改変マウス飼育室の内観



図3 ウサギ飼育室の内観



図4 洗浄室の内観

2階には清浄区域と一般区域があり、清浄区域には実験室6室（図5）、手術室2室、各種解析機器室3室（図6）、一般区域にはセミナー室、スタッフルームなどがあります。また、1階の清浄動物飼育区域と2階の清浄区域はエレベーターで往来でき、ほとんどの動物実験はセンター内で完結することができます。

3階には動物研究センターの要となる空調機器設備が置かれ、中央管理システムによる本部棟中央監視室の遠隔操作により24時間稼働しています。



図5 卓上換気装置を備えた実験室



図6 小動物用 CT 装置

## 4. 運営体制

動物研究センターには技術系職員6名と事務員1名が所属し、動物福祉に適うと同時に安定した品質を維持するための動物飼育管理、実験環境の清浄維持と実験者に対する技術支援、施設の管理運営に携わっています。特筆すべき点は、全国の大学附属動物実験施設でも一人居るか居ないかという実験動物1級技術者（社団法人日本実験動物協会）の認定を3名の職員が受けていることです。このことは平成21年度に全国の大学に先駆けて受検した、国立大学動物実験施設協議会及び公私立大学実験動物施設協議会による「動物実験に関する相互検証」においても高く評価され、「適合」評価を受けた理由の一つとなりました。

## 5. 今後の展望

遺伝子改変動物（トランスジェニック動物\*1、ノックアウト動物他\*2）は、先端的な生命科学研究において不可欠な存在となっています。当センターでは現在約50系統の遺伝子改変マウスが飼育されていますが、系統数は今後ますます増えるものと予想されます。同時に、遺伝子改変動物は系統維持と実験利用のための繁殖が不可欠で、飼養保管スペースの確保が問題となることも予想されます。その問題解決手段として、受精卵（胚）、精子の凍結保存、等の発生工学関連技術があり、技術導入のための環境整備、職員の研修派遣を行っているところです。そして、近い将来には遺伝子改変動物の系統保存、供給体制を確立し、これまで以上に本学における先端的な生命科学研究の基盤を担っていきたいと考えています。

※1 トランスジェニック動物：外部から特定の遺伝子を導入し、その導入遺伝子の機能解明に利用される動物

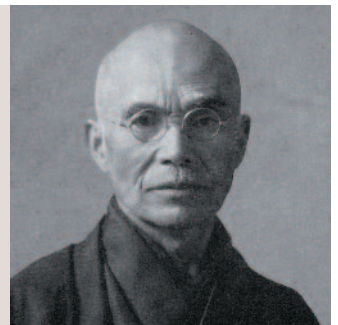
※2 ノックアウト動物：特定の内在性遺伝子を無効化することにより、その内在性遺伝子の機能解明に利用される動物

# 岩手医科大学創立者 三田俊次郎の業績

元盛岡市先人記念館長 吉丸 蓉子

三田俊次郎は、今日の岩手医科大学の創立者であり、全生涯を医療事業、育英事業、慈善事業に尽くした「限りない人間愛の人」として、またこれらの事業を通して郷土の発展に寄与した人物として、盛岡市先人記念館にも顕彰され、知られている。

写真：晩年の三田俊次郎（盛岡市先人記念館より提供）



## 1. 医師となつて

俊次郎は、盛岡藩士三田<sup>よしたか</sup>義魏を父に、文久3（1863）年、盛岡に生まれた。5才の時が明治維新であるから、時代の大きな変わり目を文明開化とともに生きたと言えよう。幼い頃から腕白のガキ大将で、柿や栗の木に人をかきわけて真っ先に登り、とった実は自分の分が無くなるのもかまわず、みんなに分けてやったという。このエピソードが、俊次郎の生涯を象徴していると思われる。

22才で県立甲種医学校を卒業、23才で医術開業免許状を受ける。28才の時、東京帝国大学医学部選科、眼科学を修了、盛岡市内加賀野に三田眼科医院を開設する。俊次郎はここを拠点として、種々の事業をくりひろげていくのである。

## 2. 病院等の創設

俊次郎の業績として、まず挙げられるのが、病院をはじめとする医療施設の創設である。閉鎖中だった元の県立病院を借り受けて開設した「私立岩手病院」、結核治療施設「岩手サナトリウム」、さらに精神病患者のための「岩手保養院」などである。これらの医療施設は、俊次郎の病に苦しむ人をひとりでも多く救いたいという切実な願いにより実現されたものである。俊次郎は、貧困者で病気になった者の救済に驚くほど積極的で、しかもこれが長年にわたって広範囲に続けられている。私立岩手病院には、当初から貧民に対する無料診療を行う施療部が設けられており、サナトリウムや保養院は、「この世の中で、最も憐れむべきは、結核患者と精神病患者そして癩者の三者である」という俊

次郎の考えによって、県内唯一のサナトリウム、あるいは東北初の精神病院として、損益を無視して創設され大きな赤字も意に介さず、経営が続けられた。俊次郎は後にこれらの事業推進のために、（助）岩手済生会を発足させるが、それは「医療を受クル資力無キ者ヲ救護スルヲ目的」としたものであった。

## 3. 医学専門学校の創設

医療施設の開設と平行して取り組んだのが、医療従事者の育成である。岩手県初の「産婆看護婦学校」を設立するとともに、郷土に無医村があつてはならないと、「私立岩手医学校」も創設した。この医学校は10年間で廃校となってしまうが、この志は消えることなく、その後、「岩手医学専門学校」の創立という俊次郎の生涯における最大の事業へと発展していったのである。一個人病院を基盤として、東北の一地方都市に、医学専門学校開校の認可を得るということは、なま易しいことではなかった。が、悲願であつた無医村の解消と郷土発展のためにという情熱が、すべての困難を押し切つたと言える。兄義正の援助もあつたが俊次郎のひた押しの行動力が開校にこぎつけるのである。私立岩手病院を医専の付属病院とし共に発展の途につくが、こうして成つた盛岡の学都化が、郷土発展のために寄与した功績は計り知れない。

## 4. 育英事業

俊次郎は、育英事業や学校経営にも力を入れた。これは、俊次郎の母キヨの志を継いだものでもある。俊次郎の母キヨは、花巻近郊の郷土の娘でほとんど無学

だったといわれる。が、子女の教育には信念をもってあたり、四男三女すべてに十分な教育を施し立派に育て上げている。その後は、自ら積錫育英会を作り、儉約節約をして積み立てた金子を、貧しい家の子どものための学資として用立てている。俊次郎は兄義正ら五名と、母キヨに学び毎月抛金をして必要な子弟に学費を貸与する岩手育英会を創設するとともに、俊次郎個人で三田医学奨励会をつくり、帝大医学部に進む者への学費援助を行っている。これらの恩恵を受けた中には、俊次郎の嗣子となり岩手医科大学長となった三田定則をはじめ、東京女子医大<sup>せき</sup>学長・久慈直太郎、九州大学名誉教授・小野寺直助、東北大学名誉教授・井上勝治郎、岩手医大教授・今泉亀徹、同・足沢三之助など多数いる。三田医学奨励会には、この学資金に対する形式的な返済は無く、返せるようになったら何らかの形で返して貰うというアバウトなものであったらしい。

儉約家で有名であった俊次郎だが、一旦お金を貸してしまうと催促は一切しなかった。が、奨学金の返済があるとその義理人情を喜んで、くりかえし家人に語ったという。この育英事業の推進に見られるように、俊次郎は、医療や郷土の発展には人材の育成が不可欠で、そのためには教育が重要であることを深く認識していた。医学校、医学専門学校の創設だけでなく、作人館中学、盛岡実科女学校、岩手高等予備校、岩手商業学校など種々の学校を創設するとともに運営に携わった。俊次郎の学校創設という教育への情熱にも、母キヨの影響を見ることができる。

## 5. 世のため人のため

貧しい者、弱い者、困っている者たちを前に、黙っていることができない、この人を慈しむ精神こそ、俊次郎をあらわすと言える。学校、病院経営などの自らの事業に専心するかたわら、盲啞学校、岩手保護院、岩手育児院、岩手養育院など、障害者、釈放者、孤児、寡婦などの保護事業にも常に関わっていた。同時に、看護婦、車夫、使用人など身の回りのすべての人を気にかけてよく面倒を見、殆ど自分を顧みることがなかったのである。

俊次郎は、独裁的なワンマンであったという。これら通常人の倍にも3倍にも匹敵する事業をなし得るには、さもあると思われる。また、俊次郎は儉約家、節約家さらには吝嗇家<sup>りんしょくか</sup>として有名であった。自らの日常は華美を嫌い質素で、衣服は同じものを何年も着ていたという。79才の天寿を全うするが、残された財産は、みすばらしい家屋の他、何もなかったという。けちと悪口を言われながら、得るお金のすべて、持てる財産のすべてを、赤字経営のサナトリウムや保養院に、病院経営や学校経営に、さらには育英資金にと、つぎ込んできたのである。限りない人間愛をもって、世のため人のために尽くした偉大な人生であったと言えよう。

(記事転載：岩手医科大学医師会報No.107より)

### 執筆者のご紹介

執筆者の吉丸先生は、盛岡市内の小学校教員などを経て、盛岡市教育委員会指導課長、教育研究所長、盛岡市立桜城小学校長等を歴任され、平成17年から平成20年に盛岡市先人記念館長を務められました。



現在は、盛岡市教育委員として教育行政に携わるほか、盛岡大学の客員教授として学生教育にも精励されています。

本号では、元盛岡市先人記念館長の吉丸蓉子先生が岩手医科大学医師会報107号に寄稿された内容をご紹介いたしました。先日、矢巾キャンパスで岩手医科大学教職員・医歯薬1年生、およびいわて高等教育コンソーシアムの一環として御講演いただきました内容です。今まで、三田俊次郎先生についてほとんど知らなかったのですが、この講演を聴いて改めて本当に優れた人であったことを認識することができました。講演を聴けなかった方々も、この寄稿をご覧ください、すばらしい大学・病院で働くことが出来ることを実感していただければ幸いです。是非ご覧ください。

(編集委員 齋野 朝幸)

## 第1回岩手医科大学研究者支援講演会が行われました

2月16日(木)午後4時から、第1回岩手医科大学研究者支援講演会「見つめ直してみませんか？私たちの働きかた・暮らしかた」が矢巾キャンパス本部棟4階大会議室（本会場）及び創立60周年記念館9階第2講義室（中継会場）で行われました。

この講演会は、本学における男女共同参画の推進を目的として本学研究者支援室設置準備委員会が主催したもので、内閣府男女共同参画会議専門委員の渥美由喜（あつみ なおき）先生と熊本大学発生活医学研究所幹細胞部門教授・男女共同参画担当学長特別補佐の糸昭苑（くめ しょうえん）先生が講師を務めました。

講演会には学内外から多数の参加があり、男女共同参画に係わる他大学等の取り組みや今後の課題について真剣に学んでいました。



## 平成23年度卒業式を挙行了しました



岩手医科大学卒業式：学長式辞

平成23年度岩手医科大学の卒業式は、3月9日(金)午前10時から岩手県民会館大ホールにおいて厳かに挙行され、本法人役員や教職員、多数のご父兄が出席されました。今年度の卒業生は、大学院医学研究科博士課程16名、医学研究科修士課程4名、歯学研究科博士課程13名、医学部73名、歯学部53名でした。

岩手医科大学医療専門学校の卒業式は、3月8日(木)午前10時から歯学部棟4階講堂で行われ、歯科衛生学科34名、歯科技工学科23名の卒業生を送りだしました。



岩手医科大学卒業式：卒業生代表宣誓



岩手医科大学医療専門学校卒業式：卒業証書授与



## 最終講義が行われました

本年3月31日付をもって定年退職される教授の最終講義が、2月27日(月)に本学講堂（歯学部棟4階）で行われました。講義は本学教職員をはじめ、在学生や卒業生など多数の関係者が聴講しました。

各教授ともスライドや在職中のエピソードなどを交えて熱心に講義され、聴講者は名残惜しそうに耳を傾けていました。講義終了後は、各教授に職員や学生等から花束が贈呈され、惜しめない拍手が送られました。

う蝕の疫学



米満 正美 教授  
(口腔保健育成学講座口腔保健学分野)

山に登るは恰も書生の業に似たり  
(生理学の学徒として)



佐々木 和彦 教授  
(生理学講座神経生理学分野)

衛生学公衆衛生学講座での30年  
-フッ素と疫学研究-



浅沼 一好 教授  
(衛生学公衆衛生学講座)

地域医療とともに18年  
~附属花巻温泉病院のこれまでの歩みと展望~



猪又 義男 教授  
(整形外科科学講座)

## 表彰の栄誉

病理学講座病理病態学分野 佐藤 孝准教授が日韓リンパ網内系ワークショップで最優秀発表賞を受賞しました

病理学講座の佐藤孝准教授は、1月28、29日ソウルで開催された第11回日韓リンパ網内系ワークショップにおいて最優秀発表賞を受賞しました。

本ワークショップは、平成2年より2年に一度、日本と韓国の持ち回りで開催され、現在まで日本と韓国における血液病理の学術交流の発展に寄与してきました。

佐藤孝准教授の発表は「ヒト胎児脾における赤脾髄の発生について (Ontogeny of the red pulp of human fetal spleen)」で、胎生期脾臓の微小循環についての解析が高く評価されました。表彰式では、学会長を務めるソウル大学 Chul Woo Kim 教授より表彰を受けました。



写真：左 Chul Woo Kim 教授  
右 佐藤 孝准教授

## 理事会報告

### ■ 1月定例（1月30日開催）

1. 医学部長の選任について  
次期医学部長：小林誠一郎（医学部形成外科学講座教授）  
（任期：平成24年4月1日から平成27年3月31日まで）
2. 教育職員の人事について  
医学部災害医学講座 特命教授 高橋 智  
（発令年月日 平成24年2月1日付）
3. 歯学部講座再編及び組織規程の一部改正について  
<改正内容>  
新年度からの外来診療部門再編に伴い、学生教育を担当する臨床講座・分野を再編し教育研究組織機構図を一部改正  
※今後は5年程度の時限により見直しを検討する  
（施行年月日 平成24年4月1日）

4. 組織規程の一部改正について  
<改正内容>  
病院協議会の廃止により、附属病院臨床部長会議を条文に位置づけることに伴う組織規程の一部改正  
（施行年月日 平成23年12月1日）
5. 教育職員の定員に関する規程の一部改正について  
（施行年月日 平成24年1月1日）
6. マルチメディア教育研究棟建設に係る工事業者の選定について
  - ・建築工事 清水建設(株)東北支店
  - ・機械設備工事 (株)朝日工業社東北支店
  - ・電気設備工事 (株)興和電設

## 学位授与

### ●医学研究科（博士）

授与番号	氏名	博士論文名	授与年月日
甲第1548号	秋山真親	fMRIを用いた健康人及び慢性閉塞性肺疾患患者の呼吸困難時における脳内賦活化部位の解析	平成24年3月9日
甲第1549号	山口真央	3D超音波とMRブラークイメージングを用いたシロスタブール投与における頸動脈プラークの経時的变化の検討	〃
甲第1550号	渡辺則之	ラット心房筋細胞におけるM <sub>2</sub> 受容体刺激で誘起されるK <sup>+</sup> 電流応答に対するイブジラストの抑制効果	〃
甲第1551号	八木淳子	若年受刑者の発達特性の検討：自閉症スペクトラム障害特性と関連因子について	〃
甲第1552号	鈴木翼	末梢性顔面神経麻痺の予後予測と治療法に関する検討	〃
甲第1553号	中山育徳	皮膚科領域におけるvirtual slideを利用した遠隔病理診断用コンサルテーションシステムの開発	〃
甲第1554号	鈴木太郎	一側性脳主幹動脈慢性閉塞患者における <sup>123</sup> I-Iomazenil SPECT上の早期・晩期像とPET上の脳血流量・脳酸素摂取率像との比較	〃
甲第1555号	小野寺ちあき	新規血液中エンドトキシン定量法としての発光合成基質法の基礎的検討	〃
甲第1556号	鎌田有紀	P2Yプリン受容体はラット涙腺腺房細胞において細胞内カルシウムの変動を引き起こす	〃
甲第1557号	菅重典	sepsisにおける多白血球血漿での特異的リムルス反応によるエンドトキシン測定の意味	〃
甲第1558号	西村智治	ロドプシンPro347Leuトランスジェニックウサギの錐体ERGにおける双極細胞応答の増大	〃
甲第1559号	肥田篤彦	統合失調症における自殺企図の特質：救急受診例に基づく検討	〃
甲第1560号	西田泰典	強度近視眼における脈絡膜厚と視力	〃
甲第1561号	遠藤正宏	新規粘膜炎アジュバントとしてのポリペプチド系抗生物質の検討	〃
甲第1562号	小出瑞穂	パーキンソン病の臨床症状と黒質および青斑核の神経メラニンイメージングの検討	〃
甲第1563号	大原美緒	TNF- $\alpha$ C-857TとアディポネクチンG+276T遺伝子多型の組合せによる日本人2型糖尿病患者のインスリン抵抗性と脂肪肝の感受性の差異	〃
乙第726号	塩谷信喜	当センターにおけるアナフィラキシー302例の検討	平成24年3月2日
乙第727号	藤原俊朗	拡散テンソル画像のボクセル解析を用いた一酸化炭素中毒後亜急性期における大脳白質障害部位の検出	〃
乙第728号	峯岸大輔	MDCK (Madin-Darby canine kidney) 細胞より分離したインフルエンザウイルス高感受性細胞のトランスクリプトーム解析	〃
乙第729号	大河晴生	Vigileo®システムによるモニタリングは術中の循環血液量の評価に有用である	〃

### ●医学研究科（修士）

授与番号	氏名	修士論文名	授与年月日
修第29号	齊藤美帆	気管支喘息患者の肺機能に対するIL-13と $\beta$ 2受容体遺伝子多型の影響	平成24年3月9日
修第30号	小野寺直人	基質特異性拡張型 $\beta$ -ラクタマーゼ (ESBL) 産生菌の分離状況～異なる2施設の分離状況の特徴とその要因分析～	〃
修第31号	立木智大	高度救命救急センター後方病棟におけるせん妄発症要因に関する検討	〃
修第32号	原田真理	肝疾患患者におけるPT-INRとPT活性%の有用性と妥当性に関する研究	〃

### ●歯学研究科（博士）

授与番号	氏名	博士論文名	授与年月日
甲第272号	山田大爾	ブタ舌動脈血管平滑筋における各種血管拡張物質による一酸化窒素の変化	平成24年3月2日
甲第273号	高橋美香子	酸性線維芽細胞増殖因子誘導性のERK1/2シグナルは靭帯由来血管内皮前駆細胞様細胞の増殖と平滑筋細胞分化を相対的に制御している	平成24年3月9日
甲第274号	示野達也	CAD/CAMによるオールセラミッククラウンの近遠心半径の設定に関する検討	〃
甲第275号	三浦真悟	ナノ構造を有する陽極酸化・水熱処理チタン表面上における線維芽細胞の挙動に関する検討	〃
甲第276号	岸上良太	iPS細胞由来奇形腫形成過程における上皮幹細胞の組織学的解析	〃
甲第277号	中村俊介	実験的な固有口腔の拡大に対する口蓋床の装着が嚥下時舌口蓋接触に及ぼす影響	〃
甲第278号	櫻庭春菜	肝細胞増殖因子はマウス臼歯の発生において歯根の成長を促進する	〃
甲第279号	桑島幸紀	赤色蛍光強発現遺伝子導入マウスにおける蛍光発現部位の形態学的検討	〃
甲第280号	玉田泰嗣	全部床義歯装着が舌骨の位置と咽頭の半径に与える影響	〃
甲第281号	佐々木健	ACP分類と無歯顎者のオトガイ孔開口位置、開口方向およびアンテリアループとの関係	〃
甲第282号	須和部京介	<i>Fusobacterium nucleatum</i> subsp. <i>nucleatum</i> ATCC 25586におけるL-cysteineから硫化水素産生に関与するL-methionine $\gamma$ -lyaseの同定	〃
甲第283号	及川愛	エナメル質の横紋形成メカニズムの解明	〃
甲第284号	三浦仁	ラット上頸神経節中の神経細胞および衛星細胞の細胞内カルシウムイオン濃度変動に及ぼすPARsの役割	〃
甲第285号	鎌田俊	塩酸メピバカインの血管平滑筋に対する作用および作用機序の検討	〃
乙第115号	佐藤一裕	岩手県における口腔インプラント治療の受療要因に関する決定木分析	平成24年3月2日

## — 大学報原稿募集 —

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活発な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、随想、作品（写真、俳句、絵画など）、サークル紹介、学報への感想など、様々な内容をお寄せください。（原稿字数 500字～1,000字程度）

また、特集してほしいテーマや、各コーナー（「表彰の榮譽」「トピックス」「教職員レター」など）への掲載依頼などもお待ちしております。事務局までご連絡ください。

**連絡先** 大学報事務局（企画部企画課）  
内線7023 kikaku@j.iwate-med.ac.jp

### 第95回大学報編集委員会

日 時：平成24年3月15日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：山崎 健、影山 雄太、齋野 朝幸、藤本 康之、小山 薫、佐藤 仁、下山 佑、佐々木 光政、佐々木 忠司、  
武藤 千恵子、野里 三津子、山尾 寿子

### 編集後記

昨年3月11日の大災害から1年が経過しました。被災された方々は、未だ大変な状況下で生活なさっていることと存じます。心よりお見舞い申し上げます。

まだ災害の爪痕が、沿岸を中心に残っているのを目にします。幸いにも岩手県・宮城県・福島県の東北3県は、『漸く』本格的な復興に向かう兆しが見えてきました。「がんばろう岩手・東北！」とエールを送りたいと思います。

個人的なことになりますが、昨年は災害で自粛していた家庭菜園ですが、1年放置していたおかげで悲惨な状況で、こちらはまだ『復興』しておりません。被災地とは比べてはいけませんが、今年は細々と再開し復興させていきたいと思います。皆さん、東北を活性化させるためにも地産地消に取り組みしましょう！（編集委員 齋野 朝幸）

### 岩手医科大学報 第426号

発行年月日 平成24年3月31日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

# すこやか スポーツ医学講座 No. 35

外科学講座

准教授 佐々木 章



## 最先端の内視鏡外科手術：単孔式腹腔鏡下手術

現在、内視鏡外科で最先端の手術は、「単孔式腹腔鏡下手術」です。従来の多孔式腹腔鏡下手術では、腹腔に二酸化炭素を送気し、5-12mm程度の3-4か所の孔から内視鏡観察下に手術を行ってまいりました。これに対して、単孔式腹腔鏡下手術では、臍に置いた25mmの1か所の孔から手術を行う方法です。手術創を1か所にすることで、多孔式手術よりも手術創の疼痛軽減、整容的利点が高いと報告されています。しかし、小さな1か所の創から手術操作を行わなければならないので、内視鏡器具や鉗子が干渉しあうなど、術者のストレスが高い手術でもあります。その問題点を克服するために、特殊なポート（3つの器具が挿入できる器具）を臍から挿入し、

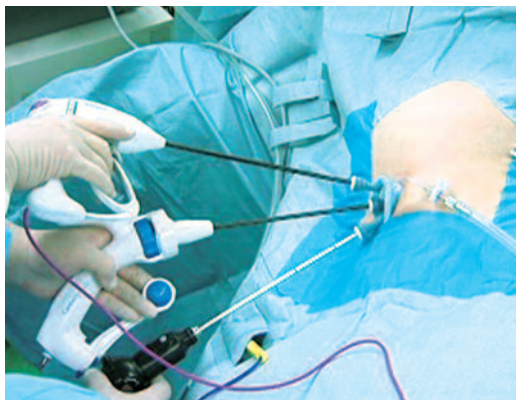


図1 単孔式腹腔鏡下左副腎摘出術

5mmの先端が屈曲する鉗子・内視鏡を使用して手術を行います（図1）。

われわれは、1992年より1,500例を超える患者さんに多孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術を行い、良好な成績を得てきました。2009年9月からは、単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術を開始、胆嚢摘出術の前向き多施設ランダム化試験（単孔式27名 vs 多孔式27名）を行い、成績を比較しました。手術時間（83 vs 69分）は単孔式群で有意に延長が認められましたが、出血量、術後鎮痛薬使用回数、術後入院期間、合併症は差がありませんでした。患者さん自身の評点尺度法（0-10点）による整容的満足度では、術後3日（9.7 vs 8.9）、術後14日（9.9 vs 9.2）であり、単孔式手術の満足度が有意に高いことがわかりました（図2）。この結果より、単孔式手術は、術後の整容的満足度が高く多孔式手術と同等に安全に実施できることから、個々の患者さんに応じて単孔式手術を提供していきたいと考えております。

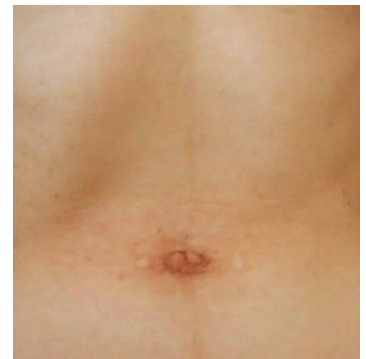


図2 手術創（術後1か月）

## 岩手医科大学震災募金のご案内

東日本大地震・大津波大災害に際し、被災により学業継続が難しい学生に対する経済的支援や今後年単位で続く事が予想される被災地への地域医療支援のための資金、大学の教育施設の被災復興を目的として、岩手医科大学震災募金活動を行っております。

皆様からのご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、手続き方法等については企画部企画課 支援受付担当までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

岩手医科大学企画部企画課 支援受付担当

〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111（内線 7022・7023）

FAX 019-624-1231

E-mail: [kikaku@j.iwate-med.ac.jp](mailto:kikaku@j.iwate-med.ac.jp)

